

秋田県名誉県民 菅 義 偉 氏 功績



(出展：首相官邸ホームページ)

顕彰年月日 令和8年6月9日

【功績】

本県湯沢市出身の菅義偉氏は、平成8年の衆議院議員総選挙での初当選以来、長年にわたり国政の第一線で活躍し、この間、総務大臣や歴代最長となる内閣官房長官を歴任した。

総務大臣の在任時には、地方への思いから「ふるさと納税制度」の創設を主導。誰もが自らの意思で故郷や地方を応援できる仕組みを確立し、地域活性化の新たな潮流を生み出した。

その後、内閣官房長官に就任し、安全保障上の脅威や大規模自然災害等に対する強固な危機管理体制を構築したほか、沖縄の米軍基地負担軽減や携帯電話料金の引下げなど、省庁間の調整役として官邸主導による実効的な政策推進に貢献した。また、新元号「令和」を発表した姿は、新時代の幕開けを物語る光景として、今も多くの国民の記憶に刻まれている。

令和2年に、本県出身としては初となる内閣総理大臣に就任した後も、卓越した実行力を遺憾なく発揮し、特に行政の縦割りを打破する象徴として、構想からわずか1年という異例の速さで「デジタル庁」の創設を実現し、我が国のデジタル社会推進の基盤を築いた。さらに、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「2050年カーボンニュートラル宣言」を行い、脱炭素社会の実現に向けた確かな道筋を示したことは、国のグ

リーン成長戦略の推進や民間企業の投資拡大などにつながり、本県における再生可能エネルギー事業の進展にも大きく貢献した。また、インバウンドの拡大による観光立国政策の推進や、農林水産物の輸出拡大にも尽力し、地方経済の底上げを図るなど、地域社会の活性化に大きく寄与した。

新型コロナウイルス感染症対策においては、世界的なワクチン確保と、当時「1日100万回接種」という高い目標を掲げて迅速な大規模接種体制を確立し、未曾有の国難に対し強い覚悟で臨み、国民に安心をもたらした。また、不妊治療にかかる公的医療保険の適用を実現し、子育て世代の経済的負担軽減に大きく貢献するなど、多くの国民の命と健康を守る具体的な成果を上げた。

我が国の政治経済並びに地方自治の発展に尽力し、出身地である秋田県の名を高めたその功績は、県民がひとしく誇りとするものである。